

平成29年度 伊志田高等学校不祥事ゼロプログラム 検証結果

○ 項目・目標別実施結果

項目	目標	実施結果と目標の達成状況
1) 体罰、不適切指導の根絶	部活動や教科指導等での体罰、不適切指導の発生を未然に防止する。	9月の事故防止全体会議で、生徒活動グループの職員が講師となり、職場研修を実施した。所属教職員全員を対象に不祥事防止職員啓発資料を活用し、授業中や部活動・合宿の指導上で注意すべき内容について身近な題材を取り上げた。生徒理解に基づく指導の徹底について共通理解を図ることができた。
2) セクハラ、わいせつ行為の防止	人権意識を高め、セクハラわいせつ行為の発生を未然に防止する。	年間を通じて、各種啓発資料を掲示し、教職員の意識啓発を行った。5月は学習指導グループの職員が講師となり「教育実習に係るセクハラ等」についてを、10月は校長による女子高校生に係る不祥事の実例を示して研修した。日常点検と事例の確認をし、人権意識を向上することができた。
3) 公務外非行の防止	公務外での非行を未然に防止する。	年間を通じて教職員の意識啓発を行うと共に、10月及び1月に校長と生活指導グループの職員が講師となり、神奈川県で起こった事故、不祥事を振り返り、研修した。身近な事例から、自分にも当てはまることがあるという視点で職場内でお互いに留意し合う意識を醸成した。
4) 適正な経理処理	公費, 私費の会計処理を適切に行う。	4月初めに私費会計担当者会議を開催し、私費会計基準に則った会計処理を確認した。また、5月、10月、2月の事故防止会議で、副校長が講師となり、諸会費や私費について財務事務調査の結果を基に再発防止策を研修した。適切な会計処理について、理解を深めることができた。
5) 個人情報管理・情報セキュリティー対策	個人情報の流失及び携帯電話・電子メールの不適切使用を未然に防止する。	9～11月の不祥事防止研修会や朝打合せで校長・教頭・情報プロジェクトの職員が講師を務め、職場研修を実施した。生徒から個人情報を収集する場合の取扱い方法や許可・承諾を得る手順を共通理解した。また、個人情報流失等に係る教職員の事故防止意識を高めた。
6) 定期試験・成績処理に係る事故防止	全ての試験や成績処理に係る事故を未然に防止する。	試験問題作成、保管等に係る注意や監督時の注意事項を朝の職員打合せ、職員会議等の場を利用して試験毎に徹底した。また、7月の事故防止全体会議で校内成績処理点検マニュアルを用いて通知表発行までの手順を確認・理解した。定期試験作問の誤りや答案誤廃棄などの事故防止の徹底を図った。
7) 入学者選抜に係る事故防止	入学者選抜に係る事故を未然に防止する。	公正な入学者選抜実施にむけ、入試選抜マニュアルを全職員で確認・修正すると共に、12月の事故防止全体会議で、事故事例についての職場研修を実施した。1・2月には面接や採点方法の具体的な実施について理解を深め、事故防止の徹底を図った。
8) 調査書に係る事故防止	調査書発行時に係る事故を未然に防止する。	7月に「調査書」作成・発行時における事故防止に向けた研修会を実施した。所属教職員全員を対象に本校の調査書作成マニュアルを用いて誤りやすい項目及び過去の事例を確認しつつ、注意喚起を徹底した。

9) 交通事故防止、酒酔い酒気帯び運転防止	交通事故、酒酔い酒気帯び運転を未然に防止する。	特に12月は管理職から交通安全についてたびたび注意喚起し、1月の事故防止全体会議では生活指導グループの職員が講師となり、「飲酒」「酒気帯び運転」「スピード違反」等の事例について取り上げ、研修会を実施した。実例をもとに事故防止を図ることができた。
-----------------------	-------------------------	--

○ 平成29年度不祥事ゼロプログラムの達成状況及び平成30年度に取り組むべき課題

「平成29年度伊志田高等学校不祥事ゼロプログラム」は実施時期が入れ替わった部分はあったが概ね予定通りに実施し、事故を防止することができた。特にわいせつ事案や教務手帳の取扱い、適切な会計処理等に重点を置き、管理職による事故防止会議をタイムリーに追加実施した。

平成30年度も職員の公務外非行と適切な会計処理は継続して重点を置きつつ、より確実に正確な成績処理、調査書発行、入学者選抜を課題に点検方法等の工夫を図る。